

㊦ タグチ工業株式会社

本 社

〒812-0007
福岡市博多区東比恵3-28-27
TEL:092-292-1622 FAX:092-292-1623

東京支店

〒105-0013
東京都港区浜松町1-18-16 住友浜松町ビル7階
TEL:03-5777-2201 FAX:03-5777-2210

北海道営業所

〒060-0012
札幌市中央区北12条西18-1-19 ブリック札幌桑園1階
TEL:011-676-6665 FAX:011-676-6664

東京機材センター

〒168-0074
東京都杉並区上高井戸3-4-9
TEL:03-5777-2201 FAX:03-5942-1252

名古屋機材センター

〒462-0007
愛知県名古屋市北区如意4-48 GIMUCO A-3号室
TEL:052-908-7880 FAX:052-908-7881

佐世保工場 (八天工業株式会社)

〒859-6404
長崎県佐世保市世知原町太田101-1
TEL:0956-76-2316 FAX:0956-76-2361

<https://taguchi-kogyo.com>

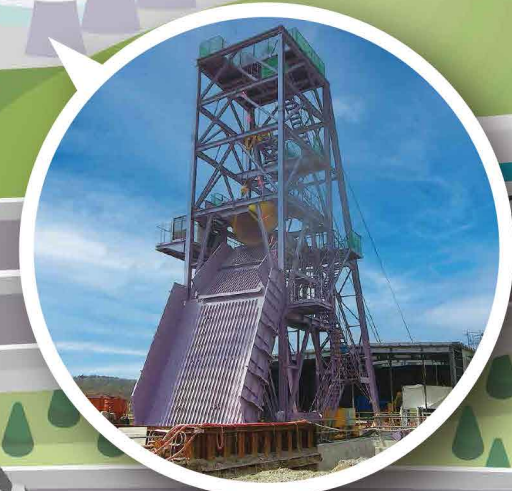
今の「!!」から、
未来のスタンダードを

山で、街の地下で… 地図を未来へ、アップデートするお手伝い。

炭坑設備を、トンネル工事に再生させた〈タグチ式立坑やぐら〉。ダンプトラックによる土砂搬出が当然とされていた時代のトンネル工事に一石を投じた〈連続ベルトコンベヤ〉。そして、従来の据付工期を大幅に短縮した〈ガイドワイヤー式リフト〉など、タグチ工業はいつの時代も、少しでも未来を見据えた「!!」の提案を行ってきました。日本の未来図をつくり続けるみなさまの良きパートナーとして、山で、そして街の地下で、次の未来のスタンダードとなる新発想のご提案を続けてまいります。

インクライン

高低差の大きな斜面にレールを敷設。その上に設けた台車で、車両、物資、そして人員を運ぶ設備が〈インクライン〉です。ダム工事、橋梁工事、さらに発電所の工事など、〈インクライン〉の活躍の場は、様々な分野に広がっています。熊本地震復興のシンボリックな存在であった「新阿蘇大橋」架橋現場での導入（5～6P参照）。その活躍は一気に全国区となりました。



立坑・斜坑設備

閉山が続く炭坑の余剰設備を、当時急ピッチで進められていた道路網整備の換気立坑工事に転用できなかったと開発されたのが〈タグチ式立坑やぐら〉です。当社にとって、プラント開発のスタートライン。その後、設備を応用した〈斜坑設備〉へと技術は継承されていきました。開発から半世紀。この技術の応用分野は今も広がっています。



連続ベルトコンベヤ（山岳土木）

延伸可能な「伸びる」ベルトコンベヤとして、現場に歓迎された〈連続ベルトコンベヤ〉。その後「曲がる」ベルトコンベヤへと進化しました。近年では、設備の小型化とアッセンブリによるコストダウンを実現した、〈SCBC（短距離連続ベルトコンベヤ）〉の開発にも成功。1,000m前後のトンネル工事現場に、次々と導入が進められています。

リフト

高低差のある山岳土木の現場で、資材や車両を、最短距離で昇降運搬する設備が〈リフト〉です。なかには100tクラスの車両や重機を、安定・安全に運ぶ大型設備もあります。支柱をワイヤーに変えることで、納期を大幅に短縮した〈ガイドワイヤー式リフト〉も登場。都市部の地下を掘削する、シールド工法の現場から期待されています。

連続ベルトコンベヤ（都市型土木・シールド工法）

都市部で、着々と掘り進められている地下工事。シールド工法の良きパートナーとして採用されているのが〈連続ベルトコンベヤ〉です。縦型ストレージカセットや捻転装置による省スペース化、ベルト反転による粉じん抑制、リアルタイム遠隔監視システムの導入。日々進化する都市土木を支えています。



信頼を積み重ね、
全国で200を超える現場に納入。

連続ベルトコンベヤ

トンネルの掘削に伴い、土砂を搬出するベルトコンベヤが追隨していく「伸びるコンベヤ」。曲線を伴う複雑な現場にも対応した「曲がるコンベヤ」。そして、短いトンネル工事に向けて、経済性とコンパクト化を実現した「SCBC」。1996年に誕生したタグチ工業の技術は、着々と進化を続けています。

製品の特徴

- 土砂搬出を飛躍的に効率化
- 1,000m前後のトンネルにも対応
- 坑内の安全性・周辺環境への配慮
- カーブ線形にも対応



急峻な地形へ、大型の重機を最短で搬送。
高まる、工期短縮への再評価。

インクライン

アクセスが難しい急峻な地形の現場へ、最短距離で重機を運ぶ「インクライン」。1989年の万場ダムへの初納入以来、積載重量や勾配角度、サイズといった設備仕様を、着々とアップデートし続けてきました。架台の全長が完成する前から運用できる「セルフクライミング方式」の採用により、さらなるコスト削減・工期短縮を実現したことで、再び注目が集まっています。

製品の特徴

- 資材を最短距離で安定して搬入
- 100tクラスにも対応
- 設置工期を大幅に短縮する新工法も登場
- 最小スペースでの資材昇降



タグチ工業の「リフト」に、
再び訪れた変革期。

リフト

高低差のある山岳土木の現場で、資材や車両を、最短距離で昇降運搬する設備が「リフト」です。なかには100tクラスの車両や重機を、安定・安全に運ぶ大型設備もあります。支柱をワイヤーに変えることで、納期を大幅に短縮した「ガイドワイヤー式リフト」も登場。都市部の地下を掘削する、シールド工法の現場から期待されています。

製品の特徴

- 資材を最短距離で安定して搬入
- 100tクラスにも対応
- 設置工期の大幅に短縮する新工法も登場
- 最小スペースでの資材昇降



今再び注目を集めている
ベーシック、かつ、可能性を秘めた技術。

立坑設備

時代の常識を破り、未来のスタンダードをつくりあげていく。こうしたタグチ工業の、ものづくりのスタイルをはじめて確立したのが「立坑設備」です。炭坑設備を土木工事の現場で再生させるアイデアは、当時、驚きを持って迎えられました。今も現役として活躍し、タグチ工業の根幹を支え続けるベーシック・テクノロジー。その技術を必要とする領域は、今も広がり続けています。

製品の特徴

- 国内唯一の技術
- 継承され続ける基礎技術
- 調査・研究分野でも活躍
- 更なる大型化・超深度へ



日本の未来図をアップデートするために、
山で、街の地下で進む、様々なプロジェクト。
私たちの心に残る、3つの現場をご紹介します。



インクライン

Incline equipment



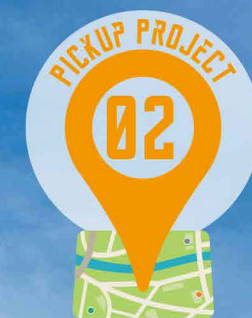
ピックアップ・プロジェクト 01 新阿蘇大橋架橋工事

1日でも早い復旧を願う地元の人々からの期待に応え、工期を1年4ヶ月短縮。

2016年の熊本地震で崩落した阿蘇大橋。地元の人々の生活に欠かせない重要な橋でした。早期復旧を目指して始まった新阿蘇大橋の建設工事は、〈インクライン〉の導入により、作業効率の高さと、工期短縮を実現しました。

現場は急峻な地形の上、常に強風に曝されていました。スピーディーかつ安全で安定した施工が求められる中で、〈インクライン〉は、復旧工事に寄せられる大きな期待にお応えしました。こうして2021年3月、着工から4年5カ月をかけて、熊本地震復興のシンボルともいえる新阿蘇大橋は完成。工期は、当初の予定より1年4ヶ月短いものでした。

この実績に対する土木業界からの評価は高く、新阿蘇大橋工事は「第2回土木賞」を受賞しています。



ガイドワイヤー式リフト

Guide wire lift



ピックアップ・プロジェクト 02

シールド工事

「もうこれが、設置工期の限界」と
考えられていた常識に、
風穴を開けた新発想とは。

高低差のある現場で、資材や車両を最短距離で運ぶリフト設備。すでに完成された技術として、土木業界のスタンダードとなっていました。タグチ工業は、ここに新しいアイデアを投入。業界の常識を覆そうとしています。

シールド工法の現場では、1日の工期短縮が数千万円のコストダウンに貢献します。立坑を上下して資材を運ぶリフトの設置期間の短縮も、重要な課題のひとつでした。そこで、リフトを支えてきた支柱をワイヤーロープに変更。この新発想によって、リフトの設置期間を大幅に短縮することができました。〈ガイドワイヤー式リフト〉と命名されたこの新しい技術は、未来のスタンダードとなります。





SCBC (短距離ベルトコンベヤ)

Short Continuous Belt Conveyor

ピックアップ・プロジェクト 03

西幡トンネル工事

タグチ工業の技術を、本当に必要としている現場へと広めていったSCBC。

これまで、ダンプトラックが主流となっていた短距離トンネルでの土砂搬送では、現場周辺への騒音や粉塵問題、坑内の環境整備、安全性の確保が課題となっていました。

この課題へのタグチ工業の解答が、〈SCBC (短距離連続ベルトコンベヤ)〉です。設備の一体化・省スペース化を実現し、アセンブリで出荷することにより、現場での据付工期も最短で7日まで短縮されます。こうした輸送、組立コストの軽減は、短距離トンネルの現場に連続ベルトコンベヤを、導入しやすいものとなりました。今後もすべてのトンネル工事に、安全と環境の向上を提供してまいります。

未来に向けて、変わり続けていく日本。

全国各地の様々なプロジェクトの現場で、

私たちの製品が、未来づくりをサポートしています。

現在では250を超える現場に貢献しています。

Continuous Belt Conveyor

連続ベルトコンベヤ

【北海道】	【中 部】
北海道新幹線	新東名高速道路
北海道横断自動車道	東海北陸自動車道
【東 北】	中部縦貫自動車道
東北新幹線	名古屋地下鉄名城線
東北中央自動車道	【近 畿】
【北 陸】	新名神高速道路
北陸新幹線	阪神高速
上信越自動車道	京都縦貫自動車道
能越自動車道	舞鶴若狭自動車道
【関 東】	播磨自動車道
リニア中央新幹線	【四 国】
東京外かく環状道路	四国8の字ネットワーク
横浜環状道路	津島道路
中央環状品川線	【九 州】
圏央道	九州新幹線
東京メトロ副都心線	九州新幹線・長崎
北関東道	
京王本線	
JP相鉄直通線	

Incline

インクライン

【北海道】	【近 畿】
導水路トンネル	新名神高速道路
導水路トンネル	京都縦貫自動車道
【東 北】	【中 国】
東北新幹線	広島空港大橋
【北 陸】	【九 州】
発電所	阿蘇大橋
【関 東】	荒瀬ダム工事
リニア中央新幹線	発電所
東京外かく環状道路	
新東名高速道路	
【中 部】	
上信越自動車道	
発電所	
新東名高速道路	
万場調整池	
水殿ダム発電所	
中部横断自動車道	
換気立坑	
発電所	

Lift

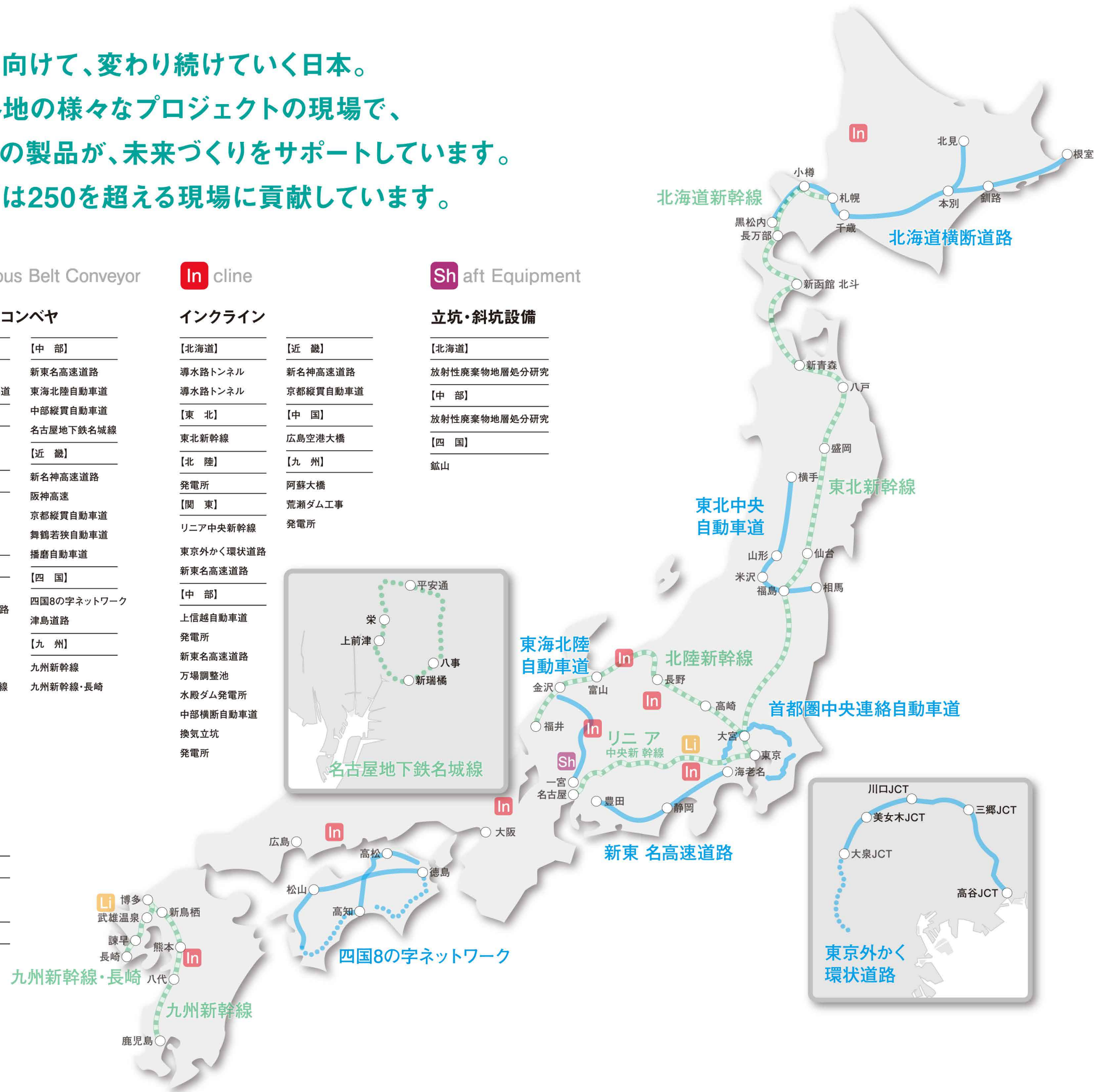
リフト

【関東・中部】
リニア中央新幹線
新東名高速道路
【九 州】
西九州自動車道

Shaft Equipment

立坑・斜坑設備

【北海道】
放射性廃棄物地層処分研究
【中 部】
放射性廃棄物地層処分研究
【四 国】
鉱山



連続ベルトコンベヤの
総延長距離が、
670kmを越えました！

皆様のお役に立ちたいと、
地下のことばかりを考えてきました。
ふと思い、空を見上げてみると…
連続ベルトコンベヤの総延長距離は、
すでに、
国際宇宙ステーションを超えていました。

- **2024** (令和6年) 田口幸作 代表取締役社長就任
- **2024** (令和6年) 福岡県福岡市博多区東比恵に本社ビル新築
名古屋機材センター開設
- **2023** (令和5年) 日本初となる〈ガイドワイヤー式リフト〉をシールド工事の現場に納入
- **2018** (平成30年) 創業70周年
- **2015** (平成27年) 北海道営業所開設
- **2014** (平成26年) 〈連続ベルトコンベヤ〉納入現場実績100現場達成
- **2011** (平成23年) 都市計画道路大和川線シールド工事に〈連続ベルトコンベヤ〉捻転設備納入
- **2009** (平成21年) 東北中央自動車道栗子トンネルに〈連続ベルトコンベヤ〉納入
- **2008** (平成20年) 中央環状川線シールド工事に〈連続ベルトコンベヤ〉納入
- **2007** (平成19年) 幌延深地層研究坑道掘削工事〈立坑設備〉を納入
- **2005** (平成17年) 資本金を8000万円に増資
- **2004** (平成16年) 瑞浪深地層研究坑道掘削工事換気〈立坑設備〉を納入
- **2002** (平成14年) 日本初のカーブ対応Uターン〈連続ベルトコンベヤ〉を第二東名工事、
清水第四トンネルに納入
- **2000** (平成12年) 資本金を4000万円に増資。カーブ対応Uターン〈連続ベルトコンベヤ〉を開発
名古屋市営地下鉄のシールド工事に連続ベルトコンベヤを初めて納入
- **1997** (平成9年) 日本初の発破工法ズリ出し〈連続ベルトコンベヤ〉を
九州新幹線田上トンネルに納入
- **1996** (平成8年) NATM用〈連続ベルトコンベヤ〉の開発に着手
- **1995** (平成7年) 田口 一生 代表取締役社長就任
- **1992** (平成4年) 第二阪奈中央立坑工事に国内最大級の〈立坑設備〉を納入
- **1991** (平成3年) 深礎用エレベーター(マンリフト)開発
- **1989** (平成元年) 日本初の工事用〈インクライン〉
(自動水平レベル維持装置)を万場ダムに納入
- **1985** (昭和60年) 東京営業所を東京支店に昇組し、東京都港区新橋に移転
- **1980** (昭和55年) 資本金を2000万円に増資
- **1973** (昭和48年) 長崎県世知原町に佐世保工場を開設(運営は八天工業株式会社)
- **1968** (昭和43年) 〈タグチ式立坑やぐら〉を恵那山トンネル換気立坑へ導入
組織を株式会社へ改組し、社名を「タグチ工業株式会社」に変更
- **1964** (昭和39年) 福岡県福岡市博多区古門戸に本社ビル新築
- **1961** (昭和36年) 東京都渋谷区広尾に東京営業所開設
- **1952** (昭和27年) 福岡県粕屋郡新宮町に工場建設
- **1948** (昭和23年) 田口一幸、研磨材の製造販売を目的に、福岡県福岡市川口町に「福岡研磨材工業」として創業

会社概要

未来に向けて、 点から面へのサポートへ。

トンネル、地下鉄、橋梁、ダム、発電所…など、
これまで、各プロジェクトの現場単位で、
当社は独自の技術を研ぎ続けてまいりました。
21世紀も四半世紀を超えた今、さらに広いエリアで、
みなさまの『未来図づくり』をサポートしてまいります。

《会社概要》

- [商 号] タグチ工業 株式会社
- [事 業 所] ☐本 社 ☐東京支店 ☐北海道営業所
☐東京機材センター ☐名古屋機材センター
☐佐世保工場(八天工業 株式会社)
- [創 業] 昭和23年7月
- [設 立] 昭和43年2月
- [資 本 金] 8,000万円
- [代 表 者] 代表取締役会長 田口 一生
代表取締役社長 田口 幸作
- [建設業許可] 福岡県知事 許可(般-3) 第50194号
☐機械器具設置工事業 ☐鋼構造物工事業
☐電気工事業 ☐塗装工事業 ☐建築工事業
- [従 業 員 数] タグチ工業:75名 八天工業:65名
*2024年4月現在
- [事 業 内 容] 機械器具設置工事業、電気工事業、
鋼構造物工事業、塗装工事業、建築工事業
- [主要取引先] 鹿島建設 株式会社、大成建設 株式会社、
清水建設 株式会社、株式会社 大林組、
前田建設工業 株式会社、西松建設 株式会社、
飛鳥建設 株式会社、鉄建建設 株式会社、
株式会社 安藤・間、株式会社 奥村組、
株式会社 熊谷組、戸田建設 株式会社、
三井住友 株式会社、株式会社 鴻池組、
佐藤工業 株式会社、株式会社 竹中土木、
株式会社 フジタ、東急建設 株式会社、他
*順不同
- [関 連 会 社] 八天工業 株式会社
TME 株式会社

2050年に向けた次の四半世紀も、 お客様の課題解決のための、新提案を続けてまいります。

〈連続ベルトコンベヤ〉を製作し始めて30年弱となりました。お客様からの温かいご支援も頂きながら導入実績も200現場を超えました。今では多くの長大トンネル現場に導入して頂き、〈連続ベルトコンベヤ〉もトンネルのズリ出し工法の一つとして認識して頂けるようになりました。今のタグチ工業があるのは皆様の支えがあってのことであり、誠に御礼申し上げます。

弊社は現状に満足せず新たな挑戦に日々邁進しております。〈連続ベルトコンベヤ〉で言えば1,000m前後でも使用可能な(SCBC)を開発。脱炭素に向けたカーボンニュートラルへの取り組みを重視した設備であると同時に、近隣の騒音や安全面を考慮しております。建設業リフトで言えば支柱の要らない〈ガイドワイヤー式リフト〉の開発。人手不足が深刻な問題となっている昨今、いかに効率良く作業が行えるかを重視した設備を開発しております。

今まで以上に現場に寄り添い、新しい技術と情熱で現場のお役に立てよう精進してまいります。今後もタグチ工業の技術と飽くなき挑戦にご期待ください。

タグチ工業 株式会社
代表取締役 社長 田口 幸作

